

かしま病院 院長

渡辺 修

新年明けましておめでとうござい
ます。
本年が皆様にとって素晴らしい年
になりますよう祈念申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと、
国外的には国民投票によるイギリス
のEU離脱、あのテレビ討論に象徴
される醜かった米大統領選でのト
ランプ氏の当選など、よもやと思わ
れることが現実となりました。地球
が逆回転したような、あまりにも自
国中心の考えが広まると、些細なこ
とから世界がとんでもない方向に進
んでしまう事が危惧されます。

一方、国内に眼を向けますと、長
い間の「決められない政治」の反動で
しょうか、「すぐに決める政治」や
りたい放題の政治」が続いています。
昨年は、国外・国内を問わず政治に
品位・品格の失われた年と総括して
は言い過ぎでしょうか？

さて、昨年の養生会かしま病院を
振り返ったとき、先ずは悲しい出来
事から取りあげなければなりません。
これまで地域の乳がん治療の先頭に
立って活躍され、このHOTHOT通信
でも毎回有意義なお話を載せてくだ
さっていた外科の鈴木正明先生の突
然の訃報をはじめとして、法人にと
って残念な出来事が続きました。そ
のため、図らずも患者さんや地域の
皆様には大変なご不便をおかけする
ことになってしまった事を改めてお
詫び申し上げます。

まだ後遺症から脱したとは言えま
せんが、一日も早く態勢を立て直し、
当法人の理念であります「地域医療
と全人的医療の実践」の原点に戻っ
て、地域の皆様のお役に立てるよう
職員全員で努めていく所存です。
今年もどうぞよろしくお願いい
たします。

クリニックかしま 院長

佐野久美子

あけましておめでとうござい
ます。
昨年は、予期せぬ診療科の減少が
あり、患者様にご迷惑をおかけしま
したと、あらためてお詫びを申し
上げます。

いわき市においては、慢性的な医
師不足が続いておりますが、これは
養生会においても例外ではありません。
こうした状況の中で、患者様にとつ
ても医師にとつても効率の良い受診
の方法をお話しさせていただきます。

効率の良い受診の方法とは、まず、
自身や家族の「かかりつけ医」を見
つけていただくことです。昔は、近
所にいる医師が、老若男女を問わず、
いつでも、どんな疾患でも、まずは
診察してくれたと思います。医師の
専門が細分化されていく中で、「かか
りつけ医」としての役割を担う医師
が減少しました。しかし、昨今では、
医師の偏在、地方の医師不足が進み、
複数の疾患を有した高齢患者が増加
する中、ふたたび、かかりつけ医の
必要性が叫ばれるようになりました。

かかりつけ医とは、病気がなった時
に、真っ先に相談したい医師で「①
近くにいる②どんな病気でも診てく
れる③いつでも診てくれる④病状を
きちんと説明してくれる⑤生活の支
援のコーディネーター役をしてくれ
る⑥必要な時にふさわしい医師を紹
介してくれる」このような条件を備
えた医師です。

クリニックかしまでは、チーム医
療を駆使し、地域の皆様のかかりつ
け医となることを目指しております。
市内の高次機能病院との連携、そし
て養生会の強みである医療と福祉の
連携により、切れ目なく患者様をサ
ポートできるよう対応してまいります。
どうぞ、今年もよろしくお願いい
たします。

かしま病院 副院長兼看護部長

村上佳代子

あけましておめでとうござい
ます。
本年が、みなさまにとりましてよ
い年でありますよう心からお祈りい
たします。

昨年四月一日に平子美智子副院長
兼看護部長の後任として着任いたし
ました。高校卒業後いわき市を離れ、
三十数年ぶりに戻ってまいりました。
前任者同様ご指導ご鞭撻いただけま
すようよろしくお願いいたします。

私は、養生会看護部の理念である
「やさしさと思いやりを大切にした
温かい看護の提供」と「よりよい人
間関係を持ち明るい職場で、安心・
安全な看護の提供」を実現するため
に、生き生きと、やりがいを持って
看護に取り組んでいる、活気ある看
護部づくりを目指します。また、病
院や地域で療養する皆様一人一人が
抱える問題に対して寄り添い、質の
高い看護が提供できるよう看護教育
の充実と人材育成に取り組んでまい
ります。

国は、少子超高齢社会に対応する
ために、効率的かつ質の高い医療提
供体制と、地域包括ケアシステムの
構築を図っています。予防・在宅・
外来・入院と多くの場で地域の皆様
と関与することが出来る養生会看護部
の強みを活かして、状態の変化に合
わせて必要な時に必要な看護が提供
できるよう、職員一同看護の質の向
上に邁進したいと思っております。
今年もどうぞよろしくお願いい
たします。



K a s h i m a G i r l s T a l k

かしま
女子的

ちよっと

井戸端会議

訪問看護師 根本寿子

新年あけましておめでとうござ
います。

「かしま女子的井戸端会議」も
三年目となりました。今年度もお
付き合ひ宜しくお願いします。

この一年間は「家族」と言うテ
ーマで、様々な女子たちのつづや
きをリレー形式にて届けたいと思
います。

「家族」と言うことは・・・「サ
ゲエさん」を思い描いてしまいま
すが、みなさんはどうですか？「ち
びまるちゃん」「ドラえもん」「朝
ドラ」・・・おじいちゃん・お
ばあちゃん・お父さん・お母さん・
子供たち・近所のお節介な人・ベ
ット・・・高度成長期・日本が
活気に溢れていた昭和を思わせる
「家族」が一番ヒットしますよね。
しかし、平成の世になり「核家族
化」されて、「家族」の形が変わ
ってきていますよね。仕事柄、様々
な家族と出会いますが、「核家族」
の中でも、その人の歩んできたも
の・作り上げて来たものを大切に
過ごされている方達と出会い・得
るものがたくさんあります。

私は、小学校の時に「看護師に
なりたい」と将来を夢見、トント
ンと夢に向かって歩んでいました
が、看護学生時代に母から「他人
と同じ釜の飯を食べてこい」と言
われ実家を出て、三畳一間の寮生
活を送りました。寮生活と言っ
ても医院での住み込みで、親元を離

れ羽を伸ばそうと思っていまし
た・・・朝は医院の玄関掃除・受
付の準備などをして学校へ行き、
帰宅後は外来の掃除や注射器・針
などを補充したり・翌日の診察の
準備をしたりと自分の時間を作る
ことができませんでした。それで
も、医院に来る患者さん・家族さ
んとの触れ合いや時には往診に付
き添い、身近に感じられる医師・
傍に寄り添う看護師の姿を間の当
たりに、より一層看護師への思
いが深まりました。私は、一人つ
子で何不自由なく育ってきました
が、この医院での生活は、私の看
護師としての原点となっています。
母の一言がなかったら、この貴重
な経験はできなかったと思います。
私も二児の母となり、あの頃の
母の心境を良く考えます。今の私
に子供たちの背中を押す事ができ
るのか？「東京の学校に進学する」と
言われたら・・・すぐに付いて
いきそうな私ですが、家族として
子供の背中を押す事も大切なん
ですね。

私は自分の生い立ちから「家族」
を考えてみましたが、かしま女子
の皆さんの「家族」やこんな「家
族」と出会いましたなど「家族」
に纏わるエピソードを伝えられ
ばと思います。

それでは、皆様にとって幸せな
一年でありますように・・・

